

学校評価書（令和2年度 保育園部）

令和3年1月29日

学校法人 浜松平和学園 平和こども園長 藤谷 昌宏
 学校法人 浜松平和学園 平和こども園 学校関係者評価委員長 原田 富子

1 こども園教育目標 「明るく たくましく やる気のある子」					
2 本年度の重点課題(学校評価の具体的な目標や計画)					
○ 生活に必要な、健康・安全の習慣を身につける ○ 諸活動を通して人間関係を深め社会性を養う					
3 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果					
※評価点は、4(十分に成果があった)、3(成果があった)、2(少しの成果があった)、1(成果がなかった)の数値を表す。					
評価項目	園としての取り組み(観点)	自己評価点	こども園としての反省と改善策	学校関係者評価委員会評価点	学校関係者評価委員会の意見
① 保育の計画性	<ul style="list-style-type: none"> 園児の実態に合った教育課程や行事が組まれているか 指導計画の評価を定期的に行い指導に生かされたか 	3	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中での行事であったが、内容や時間配分を見直したり十分な対策を講じたりして、無事に子どもたちの成長の様子を保護者に見てもらうことができた。 保育計画に基づいて個の発達を促す保育を進めているが、活動内容がパターン化しているため新しい活動を取り入れていきたい。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 大きな園であるが、コロナが出ず園生活を送れているといことは、先生たちが一丸となってコロナ対策をしてきている日々の努力があるからだと思う。神経をつかって、本当によくやってくれていると思う。 先生たちも通常のように保育ができないというもどかしさがあるだろうが、無理をせず、健康第一でやってもらいたい。
② 保育のあり方、幼児への対応	<ul style="list-style-type: none"> 個の発達にあわせた保育に心掛けたか 基本的な生活習慣をおろそかにしない保育であったか 子供同士の心の通い合いを大切にできたか 	3	<ul style="list-style-type: none"> 子ども同士のかかわりが増えるとトラブルが増えるが、個々の気持ちを尊重しながら仲介し、心の通い合う保育に努めた。 基本的な生活習慣の獲得では、子どもが自発的に動けるような言葉がけや援助をするように努めた。 0歳児では一人一人の生活リズムにあわせて食事の時間や午睡時間を調節し、無理なく安心して過ごせるようにした。 	4	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中、いろいろなことをやめるという選択をしている園が多い中、子どものことを思い、やり方を工夫してくれ、いろいろな行事を見ることができたのは嬉しかった。
③ 教師としての資質、能力、適正について	<ul style="list-style-type: none"> 保育内容の事前準備や事後処理が適切であったか 環境整備に気を配り適切に対処できたか 係の一員として自分の力を発揮したか 	3	<ul style="list-style-type: none"> 職員一人一人が分掌に責任をもって取り組み、新しいことにチャレンジしたり失敗から学んだりしながら、資質の向上に努めた。 子どもの成長に合った玩具であるかを見直したり、定期的に破損がないかを確認したり、子どもたちが安心して遊べる環境を整えた。 感染症が猛威を振るう中、手洗い・消毒・換気等の予防や登園時の視診や検温、玩具や備品、保育室内等の消毒を積極的に行った。 	3	<ul style="list-style-type: none"> コロナで登園自粛になった時にカリキュラムが進んでしまうことはどうかと思った。今後は同じようにならないようにしてもらいたい。 今年度は参観会もなく、特にバス登園の年少の保護者は担任と会う機会がなかなかなく、不安に思っている方が多かった。
④ 保護者への対応	<ul style="list-style-type: none"> 園と家庭間の連絡に滞りがなかったか 子供の社会性や成長を保護者と共有しながら保育できたか 	3	<ul style="list-style-type: none"> 保護者には積極的に声を掛け丁寧に接することを心掛けたが、送迎時の保護者対応は保育をしながらなので、十分に話す時間がもてないこともあった。 園生活での課題や家庭での心配事など、情報を共有しながら子どものよりよい成長に向けて話し合うことができた。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 欠席しているときに担任から電話がくると、気にかけていると感じる。 怪我や欠席のない子はなかなか担任と話す機会がない。ちょっとしたことでいいので連絡ノートに様子を書いてくれると嬉しい。
⑤ 地域の自然や社会との関わり	<ul style="list-style-type: none"> 地域の自然や施設を活用できたか 地域への開放や子育てへの支援ができたか 	3	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策を十分に行った上で、できるかぎりの子育て支援活動ができた。園庭では、遊びに来た親子と在園児と一緒に遊んだり話したりしてかかわりをもつことができた。 地域の方の田んぼをお借りして、れんげの種まきに挑戦した。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 担任の先生だけでなく、こども園の先生全体で手厚く子どもたちを見てくれている、気にかけているととても感じている。在園していない兄弟姉妹にも声をかけてくれるのは本当に嬉しい。 先生という仕事は子どもに大きな影響のある仕事だと、自分の子どもを見ていて感じる。子どもたちに愛情をもって人として大切なことを教えていってもらいたい。
⑥ 研修と研究	<ul style="list-style-type: none"> 各種研修会に参加し研修で得たものを保育等の実践に生かすことができたか 園内研修に自分の考えを反映することができたか 	2	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は研修会が少なかった。また、リモートでの参加になったりグループ討議がなくなったりと形が変わったが、それぞれの研修に適任者が参加することができた。その後の園内研修では、互いに学んできた内容について理解を深める場になったが参加者が固定されてきている。職員の意識改革が必要である。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 保育園部と幼稚園部の先生の連携はとれているのか？ 保育園部の先生だけでなく、幼稚園部の先生とも連携をとりたい。
⑦ 外部アンケート	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度のアンケート結果を把握し日常の活動に生かされたか 	2	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果を真摯に受け止め、できる範囲内で保護者の思いを行事や保育に反映していきたいと思う。 子どもたちが安心して安全に過ごせる場としての環境や活動内容を見直し、保育の質の向上に努めたい。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 新体操服の名札がとれやすい。どうにかならないかという声をよく聞く。